

はま風 *sea breeze*

Vol. 22

2020. 8



2020 年 6 月、機関リポジトリを公開しました。

【URL】 <https://himeji-u.repo.nii.ac.jp/>

現在、本学の 2019 年度発行の紀要と 2018 年度発行の紀要の一部が検索、閲覧できます。

右の QR コードでスマホからもアクセスできます。



- ◆ 巻頭言 p. 2
「コロナ禍における図書館の在り方」
図書館長 山口 三重子
- ◆ 推薦図書を紹介 p. 3, 4
・「根源へ」
看護学部 教授 鈴木 千絵子
・「作曲少女：平凡な私が 14 日間で曲を作れるようになった話」
教育学部 教授 杉山 雄一
・「FACTFULNESS（ファクトフルネス）：10 の思い込みを乗り越え、データを基に世界を正しく見る習慣」
教育学部 特別特任教授 平松 恵子
- ◆ ・機関リポジトリの公開について p. 5
・オンライン資料を参考にするときの注意
- ◆ 附属図書館からのお知らせ p. 6

■■■■■■■■■■ 巻頭言 ■■■■■■■■■■

コロナ禍における図書館の在り方

姫路大学附属図書館

図書館長 山口 三重子

図書館長を拝命し、着任するや否や「新型コロナウイルス感染拡大に伴う政府の緊急事態宣言（2020年4月7日）」が発令されたことを受け、同日より図書館を閉館し、多大なご迷惑をおかけしていることに心を痛めております。5月25日には緊急事態宣言解除が発表され、図書館サービスが一部利用できるようになりましたが、日ごろから知の源泉として図書館を活用されている皆様にはご不便をおかけしております。

図書館は例年であれば、入学生に向けての図書館利用に関するガイダンスが行われ、新しい学生生活の始まりに、大学構内は学生の明るい声に満ち溢れている頃ですが、今年は入構禁止となり、静寂に包まれた新年度の始まりとなりました。

その一方で、図書館はコロナ禍といえども学部生、院生の方々に対しては学習の停滞が無いように利用環境を整え、必要な図書や論文、調査研究の支援など、図書館サービスを提供しなければなりません。また、教職員の方々に対しても図書館の在り方を考え、様々な申し出に対して応えていかなければなりません。この点について、公益社団法人日本図書館協会による「図書館における新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン（2020年5月26日付）」や「新型コロナウイルス感染拡大防止のための本学の対応指針」に基づいて、図書館員の方々と話し合いを重ね、事前予約による図書の貸出、契約データベースや契約電子ジャーナルのリモートアクセスサービスが受けられるように手続きを行い、利用者に不利益がないように図書館サービスを徐々に整え、遅滞なく情報を発信して参りました。

しかしながら前期は怒涛の如く時間が流れ、図書館から発信した情報を活用していただけたかどうか心配しております。後期も引き続きオンライン授業が基本となり、それに加えて適切な感染防止対策を講じた上で対面授業も行われる予定ですが、今まで経験したことのない新型コロナウイルスによる感染の恐怖は今後も当分続いていくでしょう。

本来の図書館サービスとなるまでにはまだまだ時間が必要ではありますが、学部生、院生、教職員の皆様が質の高い図書館サービスが受けられるよう、また、重要な知的基盤となりえるよう、図書館の在り方を考え続けていきたいと思っております。



推薦図書を紹介



『根源へ』 執行草舟（著） 講談社 2013年11月

看護学部 教授 鈴木 千絵子

本のタイトルの「根源へ」は、人が生きていく上で必要不可欠な哲学のことを指しています。死、不合理、運命、芸術、宗教心、人生、老い、孤独感、歴史、文化などについて、著者が過去に読んだ膨大な古典や文学の名著の解釈と共に、説明されています。知らず知らずのうちに、学生時代に読んだ古典や、読んだことのない文学について考察し、そして新しい気づきに出会います。それと同時に、モノや情報があふれ、ときに「本物」や「本当のこと」が見えなくなっている私たち

ちに「さあ、あなたはこれからどう生きる？」と強く問いかけて来ます。

帯にある「いかにして死ぬるのか」は、「いかに生きるのか？」ということだと分かります。この本との出会いは7年ほど前なのですが、いつ読んでも、開いた部分だけ読んでも新しい発見があるので不思議です。おそらくこの本は、人生で思うようにならないことや不合理を感じている人には癒しとなり、前向きな人生を歩みたいと思っている人には勇気となる本ではないでしょうか。少し理屈っぽいと感じるかも知れませんが、お薦めしたい一冊です。



『作曲少女：平凡な私が14日間で曲を作れるようになった話』

仰木日向（著） ヤマトミュージックエンタテインメント 2016年6月

教育学部 教授 杉山 雄一

高校生の天才作曲家「珠美」がクラスメイトの「いろは」に作曲の手ほどきをする、という内容のライトノベルである（著者は「小説型の理論書」と言っている）。

彼女たちは時にケンカし、また仲直りしながら曲を仕上げていく。さて、ここに書かれている方法で、本当に2週間で作曲ができるようになるか、という疑問

符が付く。しかしそれは問題ではない。注目すべきは、この本には表現活動をする上で大切なことが多く書かれている、という点である。例えば、作曲とは「今まで自分が感動してきた体験や記憶、空間や時間を自分なりの形で音楽として再現する」ことである、と珠美は言っている。これは作曲だけに当てはまらない。演奏する時ももちろんそうだ。範囲を広げ、「作曲」を「教育」に、「音楽」を「授業・保育」に代えて読んでみても面白いと思う。自分が感動しなければ教育はできないし、子どもたちの感動も受け止めてあげられないと思うのだが、どうであろうか。

配架場所：一般図書コーナー
請求記号：913.6||OGI
ラベル番号：0048499

推薦図書を紹介



配架場所：一般図書コーナー

請求記号：002.7||ROS

ラベル番号：0048431

『FACTFULNESS (ファクトフルネス) :

10の思い込みを乗り越え、データを基に世界を正しく見る習慣』

ハンス・ロズリング、オーラ・ロズリング、アナ・ロズリング・レンデル(著)

上杉周作、関美和(訳)

日経BP社 2019年1月

教育学部 特別特任教授 平松 恵子

今春から姫路大学にお世話になっています。マイカー通勤から電車通勤に代わり、車内で本を読む時間が楽しみの一つになりました。今回は、ファクトフルネスという本を紹介したいと思います。ファクトフルネスとは、データや事実を基に世界を正しく読み解く習慣のことです。著者のハンスはある時、人々がとんでもなく世界を誤解していることに気付きます。なぜでしょう？その理由は、誰もが持っている「分断本能」、「ネガティブ本能」、「直線本能」、「恐怖本能」、「過大視本能」、「パターン化本能」、「宿命本能」、「単純化本能」、「犯人探し本能」、「焦り本能」の10の本能にありました。この10の本能を抑えなければ、事実に基づいて正しく世界を見ることができません。いまある世界を正しく認識できなければ、社会問題を解決することも、未来を予測することも危機に対応することもできないでしょう。この本は、その10の本能を誰にでもわかるように説明し、どうしたらそれらの本能を抑えることができるのかを具体的に教えてくれます。それを学び、本能が引き起こすとんでもない勘違いに気付くことが世界を正しく見ることにつながるのです。この本は、世界の姿だけではなく、自分の姿をも見せてくれます。知識不足な自分、焦って間違えた判断をしてしまう自分、誰かを責めたくてしまう自分、そんな自分に気付かせてくれブレーキをかける役に立ってくれます。周囲の意見や情報に流されず、事実をつかむ思考を得るために、おすすめしたい一冊です。

蛇足ですが、世界中で反響を呼び、ビル・ゲイツやオバマ元大統領も絶賛した一冊です。

日本でも2020年度上半期ベストセラー第1位となっています。



機関リポジトリの公開について

このたび、2020年6月、当館のホームページに「姫路大学学術機関リポジトリ」を公開しました。機関リポジトリとは、大学等の学術研究機関が創造した研究成果等をデジタル資料として収集、管理し、インターネット上に無料で公開、発信する、電子アーカイブシステムです。機関リポジトリを構築するメリットとして、主に次の点が挙げられます。

《研究者にとって》

- ・論文等の研究成果を広く発信することができ、引用される機会が増加し、研究者としての注目を得られる。
- ・研究成果が機関リポジトリで長期的に保存される。

《大学等の機関にとって》

- ・大学の教育研究成果を広く発信しつつ、長期的に保存することができる。
- ・大学の教育研究成果から生み出される学術情報を社会へ還元することができ、大学としての社会的責務を果たす上で手段とすることができる。

《一般の利用者にとって》

- ・誰でも自由に研究成果物を入手することができ、様々な知見を得ることができる。

現在のところ、本学発行の紀要3誌に掲載された論文を収録、公開しており、順次バックナンバーも公開します。また今後は、本学の教育研究活動で生み出された様々な成果物を公開していけるよう整備します。

オンライン資料を参考にするときの注意

レポートや論文を作成する際は、紙媒体の資料に限らず、電子媒体の資料にも著作権があることに注意してください。また、参照した文献は、引用文献や参考文献として最終ページに記述する必要があります。

【電子ジャーナル中の論文を参考文献とする場合の記述例】

三本芳, 藤田佐和. 放射線治療を受けているがん患者の不確かさ対処. 日本がん看護学会誌. 2012, vol. 26, no. 2, p.76-85, <https://doi.org/10.18906/jjscn.2012-26-2-76>, (参照 2020-07-20).

【新聞データベース中の記事を参考文献とする場合の記述例】

武漢肺炎、新型コロナウイルス検出. 朝日新聞. 2020年01月09日, 夕刊, 1総合, p.1. 入手先, 聞蔵Ⅱビジュアル, <http://database.asahi.com/>, (参照 2020-07-20).

【電子書籍サービスの中の図書1冊を参考文献とする場合の記述例】

武田康男編. いのちのケア: 子どもの生と死に向き合う医療と療育. 協同医書出版社, 2012, 165p., (オンライン), 入手先, Maruzen eBook Library, (参照 2020-07-20).

※電子資料の場合はアクセスした日を明記する。

※記述には様々なスタイルがあります。教員の指導に従ってください。

(参考資料) 科学技術振興機構. SIST (科学技術情報流通技術基準). <https://jipsti.jst.go.jp/sist/>, (参照 2020-07-20).

引用文献や参考文献の記述には、研究や学術における倫理上の観点と、著作権法遵守に関わる観点からの目的があります。他人の先行研究に対し自分の研究成果がどこにあるのかを明示し、読者に先行研究を参照できるようにしなければなりません。また、著作権法第32条、第48条より、公表された著作物は、引用して利用することができますが、引用する際は、その出所を合理的と認められる方法及び程度により明示しなければならず、当該著作物につき表示されている著作者名を示すこととされています。本文中での引用箇所は、「」などでくり、本文と引用部分が区別できるよう記述しましょう。また、資料を利用する際は、電子媒体の資料であろうと、紙媒体の資料であろうと、複数の情報源にあたるなど、常に情報の信頼性を確認することも忘れないでください。

図書館からのお知らせ

新型コロナウイルス感染拡大下における当館のサービスについて

新型コロナウイルス感染症対策のため、当館では4月7日より休館を継続しており、利用者の皆様には通常期と同様のサービスが提供できず大変心苦しい限りです。可能な範囲でのサービス制限緩和を常に検討していますが、現在、下記のサービスが利用できます。なお、サービスの追加や変更は随時ホームページやアクティブ・ポータル等でご案内します。

●事前予約による貸出サービスと郵送貸出

借りたい資料をメールで予約した後、図書館カウンターで貸し出し、または自宅へ着払いで郵送します。

●学外への文献複写取寄せ申し込みのWeb申請と自宅への郵送

図書館間相互利用による、学外図書館所蔵の図書や雑誌の複写物の取り寄せのWeb申請受け付けと、自宅への無料での郵送を行っています。利用者専用ページ(My Library)から申し込んでください。取り寄せにかかる複写料金等も、2019年度より、一部の場合を除いて無料です。

●オンライン資料のリモート利用

当館の契約データベースや契約電子ジャーナル、またトライアル利用中の電子書籍等を学外から利用する方法を、ホームページやアクティブ・ポータルで案内しています。

●レファレンス・サービスのメール申請

資料や情報の探し方、検索の仕方、分からないことの調べ方などについて、図書館へメールで質問することができます。内容により、回答まで数日かかる場合があります。

図書館活用術スライド資料と動画の公開について

今年度は、図書館でのオリエンテーションが実施できませんでしたが、「基礎ゼミⅠ」や「看護研究方法論」の遠隔授業で、図書館活用法に関するスライドと動画を提供しました。一部修正を加えて、ホームページで公開しました。

利用者専用ページ(My Library)での貸出期間更新手続きについて

利用者専用ページの「貸出・予約状況」メニューから、貸出中の資料の貸出期間の更新が自分で行えるようになりました。更新処理をした日から起算して再貸出となります。更新は1回まで行えます。すでに延滞している場合や、他の人が予約している場合は更新できません。また、通常貸出での貸出を対象とし、長期貸出は対象となりません。なお、利用者専用ページのID・パスワードが不明な場合は、図書館へ問い合わせてください。

編集後記

感染症防止のために、通常の来館サービスを提供できなくなってしまう、どうすれば図書館としての役割を果たしていけるか考え続ける日々です。

現在は電子資料やインターネット上の情報源も利用できる時代ですが、通常通り開館できるようになったときは、図書館という現実の場でこそ得られる価値を皆さんが実感できるようにしていきたいと思います。(図書館事務課 河本)

姫路大学附属図書館ニュースレター

はま風 sea breeze 第22号 2020年8月28日(金)発行

■編集・発行 姫路大学附属図書館

〒671-0101 兵庫県姫路市大塩町2042番2

TEL: 079-247-7396

E-MAIL: tosyokan@koutoku.ac.jp